

図書館だより

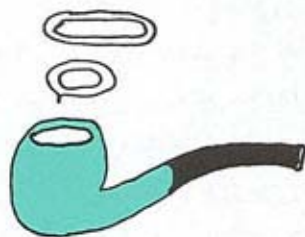
’ 9 6 . 7

ヘビースモーカーのアメリカ

国文学 村井 紀

アメリカから帰って、どことなく不機嫌な毎日を送っている。例えば、原稿を頼まれるのも、頼まれないのも嫌だという困った状態なのである。つまり森羅万象、ことごとくが気に入らない。大岡昇平を読んでいたら、これは誰でも経験するらしく、戦争から帰った大岡が、また外国帰りの知人が、同じ症状を呈している。

滞米中、いくつかの大学を訪ねたり、引越しを兼ねて大陸横断などということをやったが、このドライブのことは「広報藤」に書いたので繰り返さない。とはいえ、これは生涯の自慢の



目 次

| | |
|---------------------------|--------------------------------|
| ヘビースモーカーのアメリカ 村井 紀 ……1 | 新入職員紹介 …… 5 |
| OPACひとくちメモ ……4 | オーストラリアの高齢者ケア事情 方波見 康雄 …… 6 |
| | おしらせ・夏休みの図書館 …… 8 |

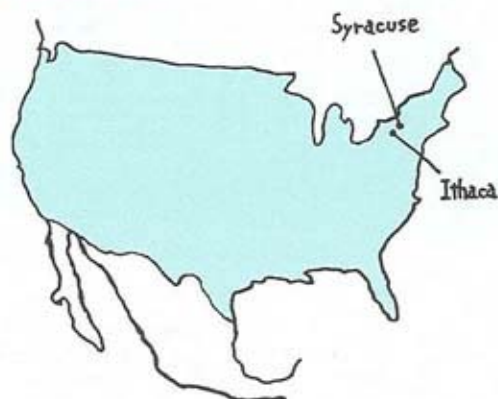
種になることは確実で、自由の女神のナンバープレートを研究室に飾っている。しかし、今思うと、おかしいほど緊張していたものの、高速道路をひたすら走っただけのことで、なんということはない。なお、広報のタイトル4000マイルは、鯖をよんでいる。記録を見たら3800マイルである。

この1年は、この旅と同様に不安と緊張の毎日であった。コトバの問題は覚悟していたにしても、次から次へと予測できない難題がもちあがる。まず、出発段階で、ビザのための書類を送ってもらうと、国籍が中国になっていた。これは序の口であった。証明書類は外国人にとって命である。妙な言い方だが、外国人をやるとするのは書類一枚、こたえるものである。

むろん生活そのものも楽ではない。留学生の場合は寮やホームステイ先の情報を頼ることになるが、私のように、いい歳での、はじめての海外生活となると通常のパターンではおさまらない。おまけにヘビースモーカーである。

いくらアメリカが外国人やマイノリティにやさしい社会だからといっても、ことタバコに関してはそうではない。もっとも、大学生は別で、反逆精神を忘れておらず？喫煙者は少なくない。といって、ここで私は、リチャード・クラインのように「煙草は崇高である」(1993)などと主張する者ではない。ただ、私がやっている日本の思想家は、本居宣長も柳田国男もヘビースモーカーであって、彼らの思想が煙とともにあったことを知っているだけのことである。「紫文要領」は紫煙と密接であり、「古事記伝」

も「遠野物語」もタバコなしにはなかった。



これは、ようやく落ちついた頃だったと思う。研究室は禁煙だから外で吸っていると、美人の女子学生に声をかけられた。心当たりはない。ドギマギしていると驚いたことに、タバコをくれというのである。以後、町でもたびたび風体の怪しい男女にタバコをねだられた。タバコはすでに「友愛」のサインなのだろうか。帰国までに、私も一度ねだってやろうと思いながら、ついにできかねた。残念である。

アメリカはマイノリティにやさしい。それは彼らがもともと祖国から見捨てられ、移民としてやってきた人々だったからである。しかし、それはそこまでであって、アメリカの市民社会が、ネイティブを排除していることも見落とせない。インディアン地名は残っていても、観光地を除くと、彼らを見かけることはない。

二度ほどシラキュース郊外にあるインディアン・ネーションにでかけた。タバコが免税なのである。のどかな田園の風景はがらりと変わり、町並みは貧しかった。タバコはもとインディア

ンのものである。それを勝手に取り上げて、植民地の商品とし、世界に広めたのは白人たちである。そして今、彼らは健康の名のもとにタバコそのものを市民社会から放逐している。インディアンを排除し、今度はタバコを排除する。へそ曲がりな私は、身勝手なものだと思う。

しかし、UCLAの女子留学生のひとりに「私がタバコを吸っているのを、親が見たらどう思うのでしょうか」といわれたときには、返答に窮した。中学生の息子のことがチラリと脳裏をかすめたからである。田中英光は、少年時代、死の床にふす父親に喫煙がばれ、叱られると思っていたところ、彼が吸っていたタバコよりも「朝日」がうまいぞといわれて、拍子抜けしたことを書いている。父親は子供の「非行」のうちに一日も早い成長を見ようとしたのである。



Amishの馬車と筆者

たしかにタバコは健康上よいことはない。しかし、健康の使い方の点でいえば、アメリカは、結局それを戦争のために使うのであって、もし

そうなら、私は癌を選ぶだろう。とってアメリカが嫌いだというのではない。むしろ私はこのようなアメリカのうちに、理想をすぐに実現しようとする、いわば高校生の純粋を見るのであり、時間や自然に解決をゆだねる大人の日本よりも、まだだと思っている。例えば、機会均等法ひとつ満足に実行しないのだから。

そして勉強の環境として見ても、世界中から学者・学生が集まっており、いわばその集中講義があるわけで、これはヨーロッパや日本などが真似のできることはない。タバコの「友愛」はともかく、海外青年協力隊でトンガにいる卒業生岸田頼子さんとの文通をはじめ、分野をこえ空間をこえた「交通」は、優に十年分に相当した。もちろん、交通に危険はつきものである。

ところで写真はコーネル大のあるイサカ郊外のアーミッシュの農家で撮ったものである。二百年変わらぬ生活を送り続ける人々である。ここには浦島太郎はいない。この社会は、時折、進化を忘れて平気である。

*アーミッシュ=スイスのJ・Ammanの創始したプロテスタントの一派で、電気・自動車など近代文明を拒否した生活を営む。

の資料は図書館にあります。

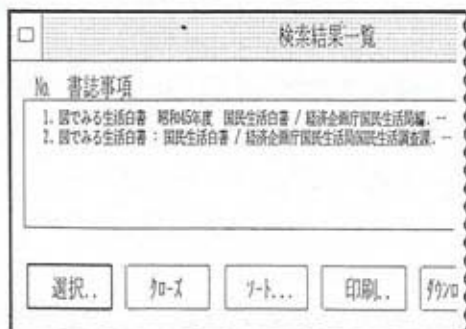
『本居宣長全集』（筑摩書房）<918.5-Mo88>他
「柴文要領」「古事記伝」が入っています。
『遠野物語』<382-Y53>他

OPACひとくちメモ 図書と雑誌の見分け方

OPACひとくちメモと題し、皆さんにOPACをより上手に使うための簡単な説明をしたいと思います。今回は図書と雑誌の見分け方を(雑誌中心に)説明します。

捜したい資料の検索語を入力しましょう。ヒットすると件数が表示され、一覧ボタンをクリックすると検索結果一覧が表示されます。

(図1)は「図でみる生活白書」と入力した画面です。



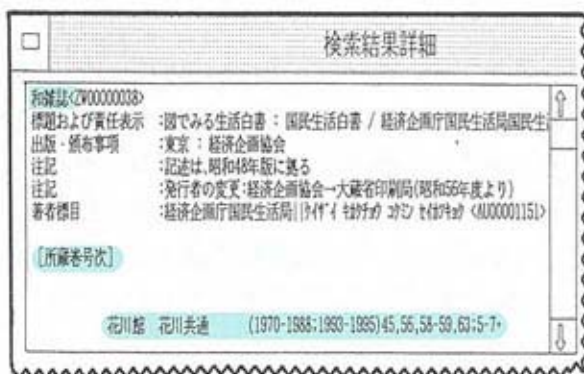
(図1)



(図2)

(図2)は(図1)の書誌No.1を、(図3)は書誌No.2を選んで選択ボタンをクリックした検索結果詳細画面です。画面の左上を見て下さい。そこには必ず和図書・洋図書・和雑誌・洋雑誌と表示されています。まずここに注目しましょう。

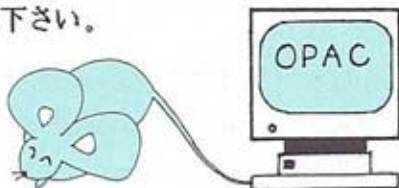
図書の画面(図2)には請求記号が表示されています。



(図3)

雑誌の画面(図3)には所蔵巻号次という項目があります。隠れている場合は右横の矢印ボタン↓をクリックすると出てきます。ここには、本学図書館所蔵分が表示されています。数字の最後に+がついている場合は、その号以降が継続されていることを表しています。

資料配置図に従って配架場所をあたって下さい。資料を見つけられない時もあきらめずに係にお尋ね下さい。



新入職員紹介



4月より新しく3名の職員を迎えました。3名とも本学の卒業生です。学生の皆さんにとっては図書館司書であり、身近な先輩でもありますので気軽に声をかけて下さい。3人に質問を投げかけました。人となりを知ることで、より親しみを持ってもらえれば…と思います。

Q：まず最初に、館員としてのモットーがあれば聞かせて下さい。

縣：一つの物事に対して、的確で丁寧な対応をする司書になりたい。

麗：「当たり前」のサービスが出来る司書に私はなりたい。

帙：常に本を愛する心を忘れない。(本を扱う人間の基本なので)

Q：好きな作家(作品)は誰(何)ですか。

縣：最近では、吉成真由美著「カラフルライフ」(文化出版局 1995)。エッセイ風の文章。著者は利根川進博士の妻。こんなに読みながら読んだ本はありません。

麗：初給料で杉浦日向子全集を揃え、初ボーナスでは杉本秀太郎文粋を購入予定。

帙：ジョン・チヴァー著「橋の上の天使」。タイトル・表紙に惹かれて、学生時代に購入希望で図書館に購入してもらいました。

Q：図書館の中で気に入っている場所があれば教えてください。

縣：本館のAVブース。少し狭い印象はありますが、そこがかえって落ち着きます。

麗：本館の書庫。学生時代は用もなくうろつき、変な本を発見したりして悦に入っていました。

帙：本館の書庫が静かで気に入っています。

Q：最後に学生の皆さんへ一言お願いします。

縣：どんなことでも一緒に考えていきたいと思っています。

カウンターにいますので、どうぞよろしくお願いします。

麗：まだまだ頼りない新参者ですが今後精進していきますので何卒よろしく願います。

帙：3月に大学を卒業し、働いておりますが、未だに学生と間違われる毎日です。こんな私ですが、皆さんのお役に立てますよう努力して参りますのでよろしく願います。



オーストラリアの高齢者ケア事情

臨床栄養学 方波見 康雄

4月の下旬に、オーストラリアにでかけてみた。そのころ札幌は、積雪ゼロ宣言がだされたばかりで、春未だ浅しという感じであったが、着いた先のブリスベンやシドニーでは、街路樹の葉が黄ばみ、落葉の秋がはじまろうとしていた。わずか9時間ほどの旅で、夏という季節をスキップしてしまったことになる。

オーストラリアにきたのは、人生の秋を迎えている人びと、さらには『黄落』の世界の住人たちが、どのように生き、支えられているのか、つまり、高齢者ケアの実状を臨床医の目で確かめてみたい気持ちからであった。

施設（ナーシングホーム、ホステル）やグループホーム、病院を見てまわり、訪問看護の現場にも同行してみた。また、老年精神医学の臨床医として高名なブロードティ教授（Henry Brodaty, University of New South Wales）と夕食をともにしながら懇談する機会にもめぐまれた。短い期間に垣間みただけのことではあったが、どこの現場も、穏やかさと温かさにつつまれているというのが私の印象であった。

たとえばそのひとつ、シドニーで訪れたある痴呆専門施設は、建物こそ質素であったが、屋内のカーテンやソファ、椅子などは落ち着いた花柄でいろどられ、壁面やコーナーのいたるところに、絵や花が入所者の心に寄り添うような穏やかさでアレンジされていた。そして、ラウンジやキッチン、居間などにはいずれも、Que-

ens Lander様式とよばれる古風なデザインの家具がそなえられていた。説明によると、わざわざ注文してつくったものであるという。こうした家具は、この地域の高齢者にはどれもが懐かしい年代物であるという。入所という環境の変化による戸惑いが、痴呆症状を誘発しないよう配慮したものであるとのことであった。

またこの施設では、入所者たちが、入所前から続けていた生活パターンを崩さないようなケアの提供を原則としていた。全員を集めて歌ったり踊ったりという、半ば強制的な集団的レクリエーションはしていないということであった。起床や就寝、食事の時間も自由で、痴呆はあっても、できるかぎり、ひとりひとりの個人の自由を大切にするというケアが実践されていた。



どこでどう老いるか。長寿社会で老いを迎える人びとの最大の関心事は、この一言につきるであろう。一流ホテルまがいのデラックスな老人施設がわが国でも、ずいぶんつくられてきている。これもたしかに必要なことではあるが、より重要なことは、人生の継続性と自己決定の尊重、残存能力の支援という高齢者ケアの基本原則を、いかに社会全体で大切に具体化していくかということであろう。ブリスベンやシドニーの町を歩くと、車椅子の人たちが行き交うことのできる、幅の広い、ゆるやかなスロープが、歩道や公園、駅の通路などにいくつも設けられていた。こうした街づくりの工夫と高齢者ケアでのゆきとどいた心配り、そして、私が訪れたどの施設にも必ずおかれていた「PATIENTS' BILL OF RIGHTS」や「User's Rights」のリーフレット。こうしたことのすべてを考えあわせると、医療と福祉の面での、この国の市民社会が持つ豊かで大きな発展の可能性に、異邦の医療人としても十分に注目しておく価値があるように考えられた。

ところでオーストラリアではいま、高齢者ケアシステムの下記のようなプログラムが展開されている。

①地域・在宅ケア計画 (The Home and Community Care Program, 通称 HACC)

住みなれた自宅で、家族や隣人に囲まれながらのケアを受けたいという高齢者のニーズにこたえたプログラムである。ホームヘルプや訪問看護、情報、移送、配食、住宅維持などの多様なサービスメニューが用意されている。

②高齢者ケアニーズのアセスメント・プログラム

施設ケアを必要とする高齢者の、身体的・医学的・心理的・社会的ニーズを総合的かつ適切に把握するためのプログラムである。多くのアセスメント項目があり、その判定は ACAT (Aged Care Assessment Teams) という老年科医やコミュニティ看護婦その他の専門職や事務職員で構成されるチームにより行われている。

もっとも、こうした計画の背景には、高齢化の進展のなかで増大する医療費と、不必要な施設入所者の増加による財政負担の抑制があることも事実である。

あわただしい視察をおえ、初秋のこの国から春の日本に立ちもどる機内で読んだ新聞記事が、公的介護保険の成立を危ぶむ報道と東京で起きた「母子餓死事件」であった。オーストラリアでの見聞を、悩み多きわが国の、地域の医療と福祉の連携の現場のなかで、どう活かすべきか。それが、臨床医としてのこれからの私の課題である。

興味を持った方は、図書館の369(老人問題・ケア・福祉等)の棚を中心にご覧下さい。その他心理学・医学分野等からもアプローチしてみるのはいかがでしょうか。



4月から新しい検索システムが公開され、閲覧室に検索用端末OPACが入りました。まだ見たことも、触ったこともない人は早速図書館に来て下さい。そして、OPACに関して質問や要望がありましたら、どしどしお寄せ下さい。多くの声を参考に、皆さんに愛されるOPACをめざして一つ一つ改善してゆきますので今後ともよろしくお願ひします。

同じく4月から学生の皆さんの貸出冊数が各館10冊までに増えました。長期貸出も開始しますので、フルに活用して下さい。

夏休みの図書館

| | |
|------|---|
| 期間 | 7月31日(水)－9月14日(土) |
| 開館時間 | 月－金 9:30－16:00 土 9:30－12:30 |
| 休館日 | 8月10日(土)－8月17日(土) 9月 2日(月)－9月 7日(土)・14日(土) |
| 長期貸出 | 7月24日(水)より開始します。 返却日は 9月19日(木)となります。 9月 9日(月)からは通常貸出(2週間)となります。 |
| 貸出冊数 | 通常通り(10冊)です。 |



詳しくは掲示板・配布資料をご覧ください。

藤女子大学 図書館だより
藤女子短期大学

第49号 1996.7

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011-736-5405 FAX 011-709-4770